

2019年12月期 第1四半期決算短信〔日本基準〕(連結)

2019年4月26日

上場会社名 株式会社ポーラ・オルビスホールディングス 上場取引所 東
 コード番号 4927 URL https://www.po-holdings.co.jp/
 代表者(役職名) 代表取締役社長 (氏名) 鈴木 郷史
 問合せ先責任者(役職名) 取締役財務担当 (氏名) 藤井 彰 (TEL) 03-3563-5517
 四半期報告書提出予定日 2019年5月15日 配当支払開始予定日 —
 四半期決算補足説明資料作成の有無 : 有
 四半期決算説明会開催の有無 : 有 (アナリスト向け)

(百万円未満切捨て)

1. 2019年12月期第1四半期の連結業績(2019年1月1日～2019年3月31日)

(1) 連結経営成績(累計)

(%表示は、対前年同四半期増減率)

	売上高		営業利益		経常利益		親会社株主に帰属する四半期純利益	
	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	%
2019年12月期第1四半期	52,440	△11.9	6,773	△31.9	6,525	△31.0	4,157	△35.1
2018年12月期第1四半期	59,526	6.2	9,943	8.9	9,460	5.6	6,406	10.9

(注) 包括利益 2019年12月期第1四半期 4,227百万円(△24.0%) 2018年12月期第1四半期 5,560百万円(△8.5%)

	1株当たり 四半期純利益	潜在株式調整後 1株当たり 四半期純利益
	円 銭	円 銭
2019年12月期第1四半期	18.80	18.77
2018年12月期第1四半期	28.97	28.93

(2) 連結財政状態

	総資産	純資産	自己資本比率	1株当たり純資産
	百万円	百万円	%	円 銭
2019年12月期第1四半期	225,050	183,071	81.2	825.90
2018年12月期	244,596	188,797	77.0	851.78

(参考) 自己資本 2019年12月期第1四半期 182,672百万円 2018年12月期 188,395百万円

2. 配当の状況

	年間配当金				
	第1四半期末	第2四半期末	第3四半期末	期末	合計
2018年12月期	円 銭 —	円 銭 35.00	円 銭 —	円 銭 45.00	円 銭 80.00
2019年12月期	—	—	—	—	—
2019年12月期(予想)	—	35.00	—	81.00	116.00

(注1) 直近に公表されている配当予想からの修正の有無 : 無

(注2) 2019年12月期(予想)期末配当金の内訳 普通配当 45円00銭 特別配当 36円00銭

3. 2019年12月期の連結業績予想(2019年1月1日～2019年12月31日)

(%表示は、通期は対前期、四半期は対前年同四半期増減率)

	売上高		営業利益		経常利益		親会社株主に帰属する当期純利益		1株当たり 当期純利益
	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	%	円 銭
第2四半期(累計)	117,000	△6.6	20,800	△10.0	20,800	△8.5	13,600	△11.2	61.49
通期	241,000	△3.0	40,500	2.5	40,500	4.0	25,500	204.0	115.29

(注) 直近に公表されている業績予想からの修正の有無 : 無

※ 注記事項

(1) 当四半期連結累計期間における重要な子会社の異動 : 無
 (連結範囲の変更を伴う特定子会社の異動)
 新規 -社 (社名) 、除外 -社 (社名)

(2) 四半期連結財務諸表の作成に特有の会計処理の適用 : 無

(3) 会計方針の変更・会計上の見積りの変更・修正再表示

- ① 会計基準等の改正に伴う会計方針の変更 : 有
- ② ①以外の会計方針の変更 : 無
- ③ 会計上の見積りの変更 : 無
- ④ 修正再表示 : 無

(4) 発行済株式数 (普通株式)

① 期末発行済株式数 (自己株式を含む)	2019年12月期 1 Q	229,136,156株	2018年12月期	229,136,156株
② 期末自己株式数	2019年12月期 1 Q	7,956,853株	2018年12月期	7,956,853株
③ 期中平均株式数 (四半期累計)	2019年12月期 1 Q	221,179,303株	2018年12月期 1 Q	221,178,319株

※ 四半期決算短信は公認会計士又は監査法人の四半期レビューの対象外です

※ 業績予想の適切な利用に関する説明、その他特記事項

本資料に記載されている業績見通し等の将来に関する記述は、当社が現在入手している情報及び合理的であると判断する一定の前提に基づいており、実際の業績は経済情勢等様々な不確定要因により、これらの予想数値と異なる場合があります。業績予想に関する事項は、【添付資料】P. 4「1. 当四半期決算に関する定性的情報 (3) 連結業績予想などの将来予測情報に関する説明」をご覧ください。

○添付資料の目次

1. 当四半期決算に関する定性的情報	2
(1) 経営成績に関する説明	2
(2) 財政状態に関する説明	4
(3) 連結業績予想などの将来予測情報に関する説明	4
2. 四半期連結財務諸表及び主な注記	5
(1) 四半期連結貸借対照表	5
(2) 四半期連結損益計算書及び四半期連結包括利益計算書	7
(3) 四半期連結財務諸表に関する注記事項	9
(継続企業の前提に関する注記)	9
(株主資本の金額に著しい変動があった場合の注記)	9
(会計方針の変更)	9
(追加情報)	9
(セグメント情報)	10

1. 当四半期決算に関する定性的情報

(1) 経営成績に関する説明

当第1四半期連結累計期間(2019年1月1日～2019年3月31日)におけるわが国の経済は、雇用・所得環境の改善が続くなかで、個人消費に持ち直しの動きが見られるなど、緩やかな回復基調が続きました。

国内化粧品市場においては、訪日観光客のインバウンド消費は堅調に推移しておりますが、中国における電子商取引法施行の影響が一部で見られ、足元の伸長は鈍化傾向にあります。なお、インバウンド消費を除く市場規模は縮小していると推察されます。海外化粧品市場においては、中国を中心に、アジアでは堅調に成長し、緩やかな拡大傾向が続いております。

このような市場環境のもと、2017年からスタートした4ヶ年中期経営計画(2017年から2020年)に基づき、国内のさらなる収益性向上と海外事業での黒字化、次世代の成長ブランド創出を達成すべく、取り組みを進めてまいりました。

以上の結果、当第1四半期連結累計期間における業績は次のとおりとなりました。

当第1四半期連結累計期間の売上高は、基幹ブランドであるPOLAブランドの国内インバウンド売上の減少影響により、前年同期比11.9%減の52,440百万円となりました。営業利益は売上高減による売上総利益減少により、前年同期比31.9%減の6,773百万円、経常利益は前年同期比31.0%減の6,525百万円となりました。以上の結果により、親会社株主に帰属する四半期純利益は前年同期比35.1%減の4,157百万円となりました。

〔業績の概要〕

	前第1四半期 連結累計期間 (百万円)	当第1四半期 連結累計期間 (百万円)	前年同期	
			増減額 (百万円)	増減率 (%)
売上高	59,526	52,440	△7,085	△11.9
営業利益	9,943	6,773	△3,169	△31.9
経常利益	9,460	6,525	△2,935	△31.0
親会社株主に帰属する 四半期純利益	6,406	4,157	△2,249	△35.1

〔セグメント別の業績〕

売上高(外部顧客への売上高)

	前第1四半期 連結累計期間 (百万円)	当第1四半期 連結累計期間 (百万円)	前年同期	
			増減額 (百万円)	増減率 (%)
ビューティケア事業	55,821	51,165	△4,656	△8.3
不動産事業	676	658	△18	△2.7
その他	3,028	617	△2,410	△79.6
合計	59,526	52,440	△7,085	△11.9

セグメント利益又は損失(△)(営業利益又は損失(△))

	前第1四半期 連結累計期間 (百万円)	当第1四半期 連結累計期間 (百万円)	前年同期	
			増減額 (百万円)	増減率 (%)
ビューティケア事業	9,670	6,449	△3,221	△33.3
不動産事業	312	304	△7	△2.5
その他	74	35	△38	△52.3
セグメント利益の調整額 (注)	△113	△15	98	—
合計	9,943	6,773	△3,169	△31.9

(注) セグメント利益の調整額とは、グループの内部取引に伴う利益及びセグメントに含まれない経費などを連結時に消去・加算した金額であります。なお、セグメント利益の調整額の詳細につきましては、P.10～11「1 報告セグメントごとの売上高及び利益又は損失の金額に関する情報(注2)」をご覧ください。

(ビューティケア事業)

ビューティケア事業は、基幹ブランドとして「POLA」「ORBIS」を、海外ブランドとして「Jurlique」「H2O PLUS」を、育成ブランドとして「THREE」「DECENCIA」「Amplitude」「ITRIM」「FIVEISM×THREE」を展開しております。

POLAブランドでは、さらなるブランド価値の向上、事業基盤の強化を進めるため、エイジングケア・美白を中心とした高機能商品の投入、ブランド価値を体現するプロフェッショナル人材育成の強化に取り組んでおります。国内市場においては、日本初承認のシワを改善する薬用化粧品「リンクルショットメディカルセラム」の発売2周年を記念して、限定サイズを1月に発売しました。2月にはポーラ最高峰シリーズ「B.A」から、全身にあふれる存在感まで美しくを目指す「B.Aタブレット」「B.Aリキッド」を発売しております。さらに5月には、市場でおよそ10年ぶりの承認となる新規美白有効成分を配合した新商品の発売を予定しております。また、「市場から憧れられ、選ばれるプロフェッショナルな人材を育成する」をミッションとし、ポーラ人材全ての価値を高める機関「ポーラユニバーシティ」が始動しております。海外市場においては、百貨店に加え、本格エステサービスを導入した新業態店や越境ECが成長し、ブランド認知の向上とともに業績も好調に推移しております。一方で、国内市場におけるインバウンド需要の減速により、POLAブランドは前年同期を下回る売上高・営業利益となりました。

ORBISブランドでは、高収益事業へと再成長を遂げるため、ブランド差別性の創出による存在感の向上に取り組んでおります。ブランドメッセージ「ここちを美しく。」の世界観を体現する商品を中心としたコミュニケーションや、一貫した市場発信を強化してまいりました。国内市場においては、2018年10月に全面刷新したエイジングスキンケア「オルビスユー」シリーズが高い評価を得ています。さらに、日本初発売となる肌への機能がある特定保健用食品(トクホ)「オルビス ディフェンセラ」を2019年1月に本格的に市場投入しました。トクホ商品の新規性・信頼性と「飲むスキンケア」という新提案が支持され、新規顧客の獲得に貢献しました。海外市場においては、中国市場での成長を加速させるため、広告投資を積極的に行っております。一方で「オルビス ディフェンセラ」に欠品が発生したことにより、ORBISブランドは前年同期を下回る売上高・営業利益となりました。

海外ブランドについては、Jurliqueブランドは豪州と香港、H2O PLUSブランドは本拠地である米国での事業成長を目指した取り組みを行ってまいりました。Jurliqueブランドは、豪州や香港の直営チャネルにおける販売に注力してまいりましたが、中国市場や豪州市場での売上が伸び悩んだことにより、前年同期を下回る売上高となりました。一方で、本部機能のダウンサイズによるコスト構造改革に積極的に取り組んだ結果、営業損失が前年同期並みとなりました。H2O PLUSブランドは、チャネル戦略の見直しにより一部リテラーから撤退した影響に加え、アメニティーの出荷減により、前年同期を下回る売上高・営業損失の拡大となりました。

育成ブランドについては、ブランドローンチから10周年を迎えたTHREEブランドの好調により、前年同期を上回る売上高となりました。一方で、2018年から新たに加わったAmplitudeブランド、ITRIMブランド、FIVEISM×THREEブランドへの更なる成長投資を行ったことにより、前年同期を下回る営業利益となりました。

以上の結果、売上高(外部顧客に対する売上高)は51,165百万円(前年同期比8.3%減)、営業利益は6,449百万円(前年同期比33.3%減)となりました。

(不動産事業)

不動産事業では、都市部のオフィスビル賃貸を中心に、魅力的なオフィス環境の整備による賃料の維持向上と空室率の低下に取り組むとともに、子育て支援に特化した賃貸マンション事業も展開しております。当第1四半期連結累計期間は、市況や他社状況を勘案した入居条件の見直しや、ビルの価値向上に向けた取り組みを行い、収益性が向上しておりますが、一方で一部テナントの退去の発生により、前年同期を下回る売上高・営業利益となりました。

以上の結果、売上高(外部顧客に対する売上高)は658百万円(前年同期比2.7%減)、営業利益は304百万円(前年同期比2.5%減)となりました。

(その他)

その他に含まれている事業は、ビルメンテナンス事業であります。

ビルメンテナンス事業は、当社グループ会社を主な取引先とし、ビルの運営管理を行っております。当第1四半期連結累計期間は、首都圏の大型工事の受注等があり、前年同期を上回る売上高・営業利益となりました。

以上の結果に加え、2019年1月に医薬品事業から撤退した影響により、売上高(外部顧客に対する売上高)は617百万円(前年同期比79.6%減)、営業利益は35百万円(前年同期比52.3%減)となりました。

(2) 財政状態に関する説明

当第1四半期連結会計期間末における総資産は、前連結会計年度末に比べ19,546百万円減少し、225,050百万円（前連結会計年度末比8.0%減）となりました。主な増減項目は、余剰資金の運用による有価証券の増加3,268百万円、投資有価証券の増加2,086百万円により増加し、一方で現金及び預金の減少19,005百万円、受取手形及び売掛金の減少5,953百万円により減少しております。

負債につきましては、前連結会計年度末に比べ13,820百万円減少し、41,978百万円（前連結会計年度末比24.8%減）となりました。主な増減項目は、事業整理損失引当金の減少9,844百万円、未払法人税等の減少4,701百万円により減少しております。

純資産につきましては、前連結会計年度末に比べ5,725百万円減少し、183,071百万円（前連結会計年度末比3.0%減）となりました。主な増減項目は、親会社株主に帰属する四半期純利益の計上4,157百万円により増加し、一方で剰余金の配当9,953百万円により減少しております。

(3) 連結業績予想などの将来予測情報に関する説明

通期の連結業績予想につきましては、2019年2月13日に発表しました業績予想に変更はありません。

(参考情報)

前期累計期間実績

	第1四半期	第2四半期	第3四半期	第4四半期
売上高	百万円 59,526	百万円 125,262	百万円 184,807	百万円 248,574
営業利益	9,943	23,103	32,335	39,496
経常利益	9,460	22,723	32,189	38,954
親会社株主に帰属する 四半期純利益	6,406	15,321	22,393	8,388

前期会計期間実績

	第1四半期	第2四半期	第3四半期	第4四半期
売上高	百万円 59,526	百万円 65,736	百万円 59,544	百万円 63,767
営業利益	9,943	13,159	9,232	7,160
経常利益	9,460	13,262	9,465	6,765
親会社株主に帰属する 四半期純利益又は 四半期純損失(△)	6,406	8,914	7,072	△14,004

2. 四半期連結財務諸表及び主な注記

(1) 四半期連結貸借対照表

(単位：百万円)

	前連結会計年度 (2018年12月31日)	当第1四半期連結会計期間 (2019年3月31日)
資産の部		
流動資産		
現金及び預金	77,332	58,326
受取手形及び売掛金	27,285	21,331
有価証券	22,597	25,866
商品及び製品	17,034	15,211
仕掛品	923	1,081
原材料及び貯蔵品	6,008	6,016
その他	6,230	10,180
貸倒引当金	△1,396	△1,397
流動資産合計	156,016	136,616
固定資産		
有形固定資産		
建物及び構築物（純額）	19,350	17,909
土地	14,675	14,145
その他（純額）	11,799	12,398
有形固定資産合計	45,825	44,454
無形固定資産		
商標権	29	34
ソフトウェア	5,600	6,626
その他	105	100
無形固定資産合計	5,735	6,760
投資その他の資産		
投資有価証券	22,737	24,824
その他	14,541	12,669
貸倒引当金	△260	△274
投資その他の資産合計	37,019	37,219
固定資産合計	88,580	88,434
資産合計	244,596	225,050

(単位：百万円)

	前連結会計年度 (2018年12月31日)	当第1四半期連結会計期間 (2019年3月31日)
負債の部		
流動負債		
支払手形及び買掛金	5,519	3,852
未払法人税等	5,431	730
賞与引当金	1,585	1,674
ポイント引当金	3,547	3,213
事業整理損失引当金	9,906	61
その他の引当金	67	31
その他	20,096	22,391
流動負債合計	46,154	31,955
固定負債		
その他の引当金	52	79
退職給付に係る負債	4,236	3,897
その他	5,355	6,046
固定負債合計	9,644	10,023
負債合計	55,799	41,978
純資産の部		
株主資本		
資本金	10,000	10,000
資本剰余金	90,240	80,287
利益剰余金	88,968	93,125
自己株式	△2,188	△2,188
株主資本合計	187,021	181,225
その他の包括利益累計額		
その他有価証券評価差額金	2	△131
為替換算調整勘定	2,063	2,033
退職給付に係る調整累計額	△691	△454
その他の包括利益累計額合計	1,374	1,446
新株予約権	275	276
非支配株主持分	125	123
純資産合計	188,797	183,071
負債純資産合計	244,596	225,050

(2) 四半期連結損益計算書及び四半期連結包括利益計算書

四半期連結損益計算書

第1四半期連結累計期間

(単位：百万円)

	前第1四半期連結累計期間 (自2018年1月1日 至2018年3月31日)	当第1四半期連結累計期間 (自2019年1月1日 至2019年3月31日)
売上高	59,526	52,440
売上原価	9,445	8,011
売上総利益	50,081	44,429
販売費及び一般管理費		
販売手数料	13,700	12,014
販売促進費	5,091	4,659
広告宣伝費	2,524	2,793
給料手当及び賞与	4,912	4,652
賞与引当金繰入額	1,135	1,010
ポイント引当金繰入額	2,253	2,378
その他	10,520	10,147
販売費及び一般管理費合計	40,137	37,655
営業利益	9,943	6,773
営業外収益		
受取利息	47	42
為替差益	—	66
その他	108	72
営業外収益合計	155	182
営業外費用		
支払利息	16	21
投資有価証券評価損	—	265
為替差損	600	—
支払補償費	—	103
その他	21	40
営業外費用合計	638	430
経常利益	9,460	6,525
特別利益		
新株予約権戻入益	26	—
その他	0	0
特別利益合計	26	0
特別損失		
固定資産除却損	17	7
その他	2	0
特別損失合計	19	8
税金等調整前四半期純利益	9,467	6,516
法人税、住民税及び事業税	3,411	531
法人税等調整額	△348	1,830
法人税等合計	3,063	2,362
四半期純利益	6,403	4,154
非支配株主に帰属する四半期純利益	△2	△2
親会社株主に帰属する四半期純利益	6,406	4,157

四半期連結包括利益計算書

第1四半期連結累計期間

(単位：百万円)

	前第1四半期連結累計期間 (自2018年1月1日 至2018年3月31日)	当第1四半期連結累計期間 (自2019年1月1日 至2019年3月31日)
四半期純利益	6,403	4,154
その他の包括利益		
その他有価証券評価差額金	△0	△134
為替換算調整勘定	△891	△29
退職給付に係る調整額	48	236
その他の包括利益合計	△843	72
四半期包括利益	5,560	4,227
(内訳)		
親会社株主に係る四半期包括利益	5,567	4,229
非支配株主に係る四半期包括利益	△7	△2

(3) 四半期連結財務諸表に関する注記事項

(継続企業の前提に関する注記)

該当事項はありません。

(株主資本の金額に著しい変動があった場合の注記)

該当事項はありません。

(会計方針の変更)

当社グループのIFRS適用子会社は、当第1四半期連結会計期間よりIFRS第16号「リース」(2016年1月公表)(以下、IFRS第16号)を適用しております。IFRS第16号の適用にあたっては、経過措置として認められている、本基準の適用による累積的影響を適用開始日に認識する方法を採用しております。

過去にIAS第17号を適用してオペレーティング・リースに分類した借手としてのリースについては、適用開始日に、使用权資産及びリース負債を認識しております。

本基準の適用に伴い、連結貸借対照表は、有形固定資産のその他1,577百万円、流動負債のその他725百万円及び固定負債のその他914百万円が増加しております。

また、この変更による当第1四半期連結累計期間の損益に与える影響は軽微です。

(追加情報)

(「『税効果会計に係る会計基準』の一部改正」等の適用)

「『税効果会計に係る会計基準』の一部改正」(企業会計基準第28号 平成30年2月16日)等を当第1四半期連結会計期間の期首から適用しており、繰延税金資産は投資その他の資産の区分に表示し、繰延税金負債は固定負債の区分に表示しております。

(セグメント情報等)

【セグメント情報】

I 前第1四半期連結累計期間(自 2018年1月1日 至 2018年3月31日)

1 報告セグメントごとの売上高及び利益又は損失の金額に関する情報

(単位:百万円)

	報告セグメント			その他 (注) 1	合計	調整額 (注) 2	四半期連結 損益計算書 計上額 (注) 3
	ビューティ ケア事業	不動産事業	計				
売上高							
外部顧客への売上高	55,821	676	56,498	3,028	59,526	—	59,526
セグメント間の内部 売上高又は振替高	22	129	152	399	551	△551	—
計	55,844	806	56,650	3,427	60,078	△551	59,526
セグメント利益	9,670	312	9,982	74	10,056	△113	9,943

- (注) 1 「その他」の区分は、報告セグメントに含まれない事業セグメントであり、医薬品事業及びビルメンテナンス事業を含んでおります。
- 2 セグメント利益の調整額△113百万円には、セグメント間取引消去785百万円、各報告セグメントに配分していない全社費用△898百万円が含まれております。全社費用は、報告セグメントに帰属しない当社本社の管理部門に係る費用等であります。
- 3 セグメント利益は、四半期連結損益計算書の営業利益と調整を行っております。

2 報告セグメントごとの固定資産の減損損失又はのれん等に関する情報

(固定資産に係る重要な減損損失)

該当事項はありません。

(のれんの金額の重要な変動)

該当事項はありません。

II 当第1四半期連結累計期間(自2019年1月1日至2019年3月31日)

1 報告セグメントごとの売上高及び利益又は損失の金額に関する情報

(単位:百万円)

	報告セグメント			その他 (注) 1	合計	調整額 (注) 2	四半期連結 損益計算書 計上額 (注) 3
	ビューティ ケア事業	不動産事業	計				
売上高							
外部顧客への売上高	51,165	658	51,823	617	52,440	—	52,440
セグメント間の内部 売上高又は振替高	17	123	141	504	645	△645	—
計	51,182	782	51,964	1,121	53,086	△645	52,440
セグメント利益	6,449	304	6,753	35	6,789	△15	6,773

(注) 1 「その他」の区分は、報告セグメントに含まれない事業セグメントであり、ビルメンテナンス事業であります。なお、「その他」を構成していた医薬品事業については、当社の保有する株式会社ポーラファルマの全株式を2019年1月1日付で譲渡したことに伴い、連結の範囲から除外しております。

2 セグメント利益の調整額△15百万円には、セグメント間取引消去953百万円、各報告セグメントに配分していない全社費用△968百万円が含まれております。全社費用は、報告セグメントに帰属しない当社本社の管理部門に係る費用等であります。

3 セグメント利益は、四半期連結損益計算書の営業利益と調整を行っております。

2 報告セグメントごとの固定資産の減損損失又はのれん等に関する情報

(固定資産に係る重要な減損損失)

該当事項はありません。

(のれんの金額の重要な変動)

該当事項はありません。